

青年海外協力隊 とちぎ応援団ニュース

第 14 号 平成 29 年 3 月 31 日発行

青年海外協力隊とちぎ応援団



平成 28 年度 1 次隊 協力隊 4 名
県庁にて福田富一知事と



平成 28 年度 2 次隊 協力隊 3 名
県庁にて福田富一知事と



平成 28 年(2016 年)度 3 次隊 協力隊 3 名
県庁にて赤松俊彦副知事と



2016 年度 4 次隊 協力隊 4 名、シニア 1 名
県庁にて赤松俊彦副知事と

平成 28 年度に派遣された新隊員 15 名の活動内容と抱負

<28 年度 1 次隊のみなさん 4 名>

齋藤 志織さん（ニカラグア/小学校教育） 大田原市より現職参加

【活動内容】現地の小学校に所属し、算数教育の向上に努めます。主に、現地の先生や教育実習生と一緒に授業づくりに取り組む予定です。

【抱負】現地の子どもたちとたくさん遊び、交流が多く持てるようにしたいです。現地のニーズに合わせた授業展開を考え、日本の教育にも活かせるようにしていきたいです。

鈴木 明日美さん（ニカラグア/助産師） 高根沢町

【活動内容】現地の地域医療 NGO にて、中学生を対象とした性教育リプロダクティブヘルスの向上。

【抱負】現地の方々と共に生活し、現地の方々の価値観を大切に、ニカラグアの母子が安全で幸せな妊娠・出産が出来るよう、現地の方々と一緒に頑張ります！

中野 麻希さん（ネパール/コミュニティ開発） 鹿沼市より現職参加

【活動内容】現地で起こった大震災の復興のお手伝いと、現地に合った防災方法の確立。

【抱負】現地をよく見た活動ができるように、まずは現地の方と仲良く楽しみたいと思います！

長尾 耕輔さん（タンザニア/体育） 佐野市

【活動内容】学校体育の普及活動。タンザニア国内における体育の価値の向上。

【抱負】現地の方々が必要としていること、そして自分にできることをよく見極め、現地の方々とともにタンザニアに合った体育を創り上げていく。

<28 年度 2 次隊のみなさん 3 名>

高津戸 桜彩響さん（ガーナ/学校保健） さくら市

【活動内容】保健室の機能の紹介、手洗い等の衛生教育活動、学校保健委員活動の推進、小中学校の巡回。

【抱負】子ども達が健康に不安を抱えることなく、安全で充実した学校生活を送れるよう、現地の方と協力してサポートしていきたいです。

野口 慎介さん（セネガル/数学教育） 宇都宮市

【活動内容】教員養成校での教員養成及び現地の小・中・高校の巡回指導。

【抱負】子どもに笑顔を与えられるように、地域住民・現地職員と一致団結して、指導及び教員の育成を目指したい。

森岡 愛美さん（タンザニア/看護師） 宇都宮市

【活動内容】病院で 5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）を展開。病院の職場環境の改善、介護サービスの質の向上。

【抱負】現地に溶け込み、交流し現地の文化や音楽なども体験し、日本の良さを伝えていけたらと思っています。

<28 年度 3 次隊のみなさん 3 名>

堀田 友也さん（スリランカ/バドミントン） 宇都宮市

【活動内容】小・中・高校生のナショナルチームの指導や地方への巡回を行います。

【抱負】2020 年の東京オリンピックで活躍できる選手を育てていきたいです。また、バドミントンを通じて多くの人たちと仲良くなり、スリランカの文化に触れていきたいです。

永島 洸平さん（ドミニカ共和国/陸上競技） 佐野市

【活動内容】7～18歳の学生に陸上競技を教えます。特に短距離を中心に走り方を指導する予定です。

【抱負】陸上競技を通しドミニカ共和国の方々と交流して、文化を知り、人を知り、それを帰国した際に多くの日本の人々に伝えられるようになりたいと思っています。

平野 康夫さん（モザンビーク/理科教育） 鹿沼市

【活動内容】現地中学校で理科の実験を生徒や先生に伝えてきます。生徒が4000人弱いるのに対し理数科の先生は10名程度しかおらず、教員不足の現状です。

【抱負】任国では、科学に対する知識が足りず、実験を行う授業自体もほとんど行われていないと聞きます。日本の学校では、アクティブラーニング等の生徒間での学び合いの授業も展開されており、任国でも伝えてゆきたいと思います。

<28年度4次隊のみなさん 5名>

赤野 百合恵さん（ボリビア/手工芸） 那須烏山市

【活動内容】障害者の自立支援施設で手工芸を教えます。現地の方々の収入に繋がるようにアイディアの提案などを行います。

【抱負】現地の方々に親しみ、今後に繋げていけるように頑張りたいと思います。

清水 美生さん（ホンジュラス/数学教育） 足利市 佐野市より現職参加

【活動内容】中学校の数学教育の支援をします。先生方と研修を行ったり、宿題、問題の作成をします。

【抱負】出来ることをコツコツと一生懸命やりたいです。そして、数学好きの中学生をひとりでも増やしたいです。

真瀬 慶彦さん（コロンビア/自動車整備） 野木町

【活動内容】国立の職業訓練庁にて、ディーゼル自動車の授業カリキュラムの改善、他科のカリキュラムの確認。

【抱負】いち早く環境に慣れ、任国について深く知って現地の人々の役に立ちたいです。

蓬田 義子さん（ニカラグア/日本語教育） 日光市

【活動内容】大学の言語センターで、日本語を教えます。現地日本人教師の指導や、教材作成、日本文化紹介なども行います。

【抱負】現地の言語・文化を理解し、早く溶け込んで活動していきたいです。

鈴木 由美さん（ケニア/PCインストラクター） 那須塩原市 シニア海外ボランティア

【活動内容】女子高校のICT教師のサポート

【抱負】学生たちのICT教科への興味を喚起しJICAボランティアの活動枠を確保します。この流れを定着させるよう努めます。

<28年度の帰国隊員> 22名 帰国表敬者7名

出発前隊員が表敬



平成 28 年度 1 次隊

栃木放送のラジオ番組に出演し、抱負を語る隊員
(6月22日)



平成 28 年度 2 次隊

壮行会会場での集合写真 (9月23日)



平成 28 年度 3 次隊

県国際交流協会の角田孝之理事長(右から2人目。当時)を表敬訪問した隊員



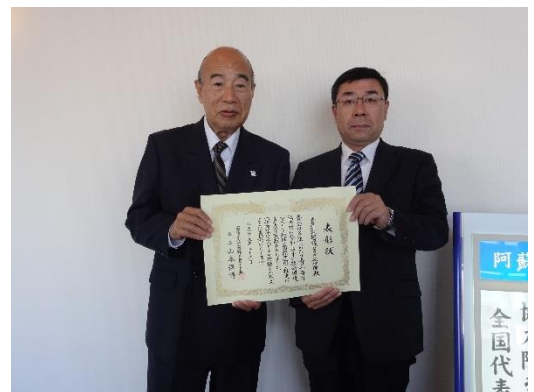
平成 28 年度 4 次隊

地元、那須烏山市役所に大谷範雄市長を表敬訪問した赤野百合恵隊員 (3月21日)

平成 29 年 2 月 3 日 (一社) 協力隊を育てる会発足 40 周年記念式典

一般社団法人協力隊を育てる会(会長・山本保博日本医大名誉教授)は2月3日、東京・市ヶ谷のJICA市ヶ谷ビルで40周年式典を開催。JICAの北岡伸一理事長や各都道府県の育てる会代表らが出席し、40年の歩みを振り返るとともに、記念シンポジウムなどを通してJICAボランティアへの支援の在り方を論議した。

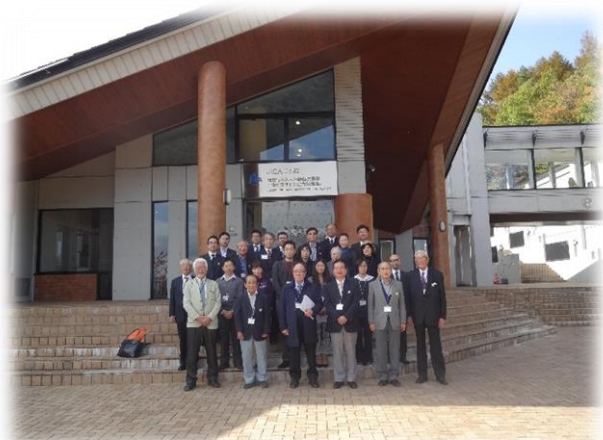
式典では、とちぎ応援団など、設立10年超の6県の育てる会と、27県の育てる会推薦の個人、企業に表彰状が贈られた。表彰理由は「組織の発展と協力隊参加の社会づくりに貢献した」こと。とちぎ応援団推薦の上西朗夫初代会長も表彰された。



協力隊を育てる会の山本保博会長(左)からとちぎ応援団に表彰状が贈られた(東京 市ヶ谷で)

平成 28 年 10 月 27 日 JICA 二本松訓練所視察

JICA 筑波センターは 10 月 27 日、とちぎ応援団に JICA 二本松訓練所での派遣前訓練を見てもらうため、施設訪問を実施しました。この日は、とちぎ応援団観堂義憲会長をはじめ役員、会員や留守家族、県国際課、県国際交流協会など総勢 20 名での訪問となりました。



JICA 二本松訓練所の玄関で



訓練中の平野康夫隊員（左から 2 人目）
を励ます応援団役員

平成 29 年 2 月 18 日 留守家族連絡会

2 月 18 日、県 JICA ボランティア留守家族連絡会がとちぎ国際交流センターで開催され、留守家族の 17 家族 28 名が出席しました。留守家族の山登和美さんが、ご子息の任地を訪問した様子を発表。県国際課野口善幸さんよりカンボジア視察について報告していただきました。



あいさつする小菅充応援団副会長（右）



留守家族、山登和美さんの任地訪問の発表

小さなハートプロジェクトへの協力

平成 26 年度 3 次隊の看護師隊員でジブチ共和国に派遣された安藤はるか隊員（宇都宮市出身）が、協力隊を育てる会に「小さなハートプロジェクト」を活用した活動助成を申請しました。とちぎ応援団はこれに賛同し、資金協力を行いました。

助成内容は下記の通りです。

ディキル州保健センターにおける上下水道設備強化プロジェクト

ジブチは「世界一暑い国」と言われ、夏は 50 度近くまで気温が上がる過酷な地域です。配属先はディキル州の基幹病院ですが、脆弱な水道整備により、手洗いやトイレ、洗濯、掃除、水浴びなどに水を使うことができず、人糞や家畜の糞が散乱する不衛生極まりない環境です。そこで大きな貯水槽を院内に設けることで、モーターへの負担を軽くし、上下水道の強化を図りたいと思います。本プロジェクトは衛生的な環境を持続させ、また同時に衛生啓発活動を行うことで、ディキル州の人々の健康を長期的に守ることを目的としています。



2016 年 12 月、病院に貯水槽が完成し、病院内の各科に貯水槽からの水が行き渡りました。

平成 29 年 1 月 22 日～28 日

JICA 筑波センターは栃木、茨城両県出身の青年海外協力隊員の活動を現地で直に見てもらうため、カンボジア青年海外協力隊事業等理解促進調査団を 1 月 22 日から 28 日まで派遣しました。調査団には両県の主要メディア記者も参加し、新聞や放送で詳しく報道されました。

カンボジア青年海外協力隊事業等理解促進調査団に参加して

とちぎ応援団は平成 15 年の創設以来、本県出身の青年海外協力隊員のため、毎年数回の壮行会を開いてきました。隊員の活動ぶりは帰国報告会で貴重な映像を交えて伺っていましたが、とちぎ応援団として隊員の活動現場に行く機会はありませんでした。

今回は JICA 筑波センターのご配慮で、栃木、茨城両県による青年海外協力隊事業等理解促進調査団がカンボジアに派遣されることになりました。

百聞は一見にしかず。カンボジアで隊員たちが実際にどんな活動をし、これを JICA がどう支えているかが実感をもって確認できました。

協力隊事業だけでなく、橋や道路など JICA 主導の政府開発援助（ODA）がカンボジアの発展に大きく役立っていました。益子焼の指導などカンボジアと栃木県との堅いきずなを知ることができ、茨城県の国際交流関係者と知り合えたことも大きなお土産となりました。（青年海外協力隊とちぎ応援団事務局長、石崎公宣）



栃木市出身の土屋麻美隊員(中央)を激励した芳賀克彦団長ら団員(カンボジア、タケオ市で)



<2月7日付下野新聞>



水泳職種で派遣され、ナショナルチームを指導中の埼玉県出身、生山咲隊員(右)の話聞いた。



臨床検査技師の佐川智栄子隊員(水戸市出身)はコンポンチュナ州立病院で働いています(1月25日)



王立プノンペン大学日本語学科を訪問し、日本人女子大生による対話授業を視察した（1月27日）

「幻の陶器」復活に益子の技

【コンボッチュナンで本紙石井賢俊記者】カンボジアへの国際協力機構（JICA）が寮は栃木の窯業技術支援センターの指導で造られた「青年海外協力隊等事業理解促進調査団」の一員として25日、首都プノンペンから北西に約80キロのコンボッチュナンを訪れた。「土鍋の巻」を意味する都市名。アンコール王朝滅亡後に失われた製陶技術が、益子焼の技術に後押しされ、この地では再び甕や土鍋の形を整え、模様を付けている。工房では地元で20代、50代の男女約10人が黙々と、粘土の形を整え、模様を付けている。通称も「益子焼」と呼ばれる。高度な製陶技術を再興したい。山崎さんが2000年ごろ、日本の「自治体国際化協会」を通じ支援してくれた。山崎さんが2000年ごろ、日本の「自治体国際化協会」を通じ支援してくれた。山崎さんが2000年ごろ、日本の「自治体国際化協会」を通じ支援してくれた。



陶芸家らカンボジア名産目指す

【コンボッチュナンで本紙石井賢俊記者】カンボジアへの国際協力機構（JICA）が寮は栃木の窯業技術支援センターの指導で造られた「青年海外協力隊等事業理解促進調査団」の一員として25日、首都プノンペンから北西に約80キロのコンボッチュナンを訪れた。「土鍋の巻」を意味する都市名。アンコール王朝滅亡後に失われた製陶技術が、益子焼の技術に後押しされ、この地では再び甕や土鍋の形を整え、模様を付けている。工房では地元で20代、50代の男女約10人が黙々と、粘土の形を整え、模様を付けている。通称も「益子焼」と呼ばれる。高度な製陶技術を再興したい。山崎さんが2000年ごろ、日本の「自治体国際化協会」を通じ支援してくれた。山崎さんが2000年ごろ、日本の「自治体国際化協会」を通じ支援してくれた。



<1月28日付下野新聞>

本県隊員、教員養成に汗

「ドードーソニー ラーソニー」。日本人女性が大きな声で歌う「きらきら星」の旋律が狭い教室に響く。ホワイトボードに張られているのは鍵盤の絵。歌に合わせて、一音ずつ鍵盤をたたく指先を男女25人の学生がじっと見つめていた。

JICA 成長への懸け橋

本紙記者カンボジア訪問記 ④



1年半前、土屋さんの授業を受けるまで、ピアノの弾き方はもちろん、音楽の楽しさすら知らなかった。土屋さんは栃木南高（現栃木翔南高）を卒業後、大学で教員免許を取得。東京で介護の仕事を経験した後、海外で子どもたちと触れ合う仕事かしたい」との夢をかかなるため、2015年9月から協

力が置かれず、教師の社会的地位は低い。月収も低いため多くは副業に精を出し、授業に身が入らないのが実情だ。教育青年スポーツ省のア・サミット教育局長は、取材に「カンボジアの先生は誇りを持てにくい。土屋さんは日本とのギャップを感じつつも、



教員を目指す学生たちに音楽の楽しさを伝える土屋さん＝1月26日、タケオ州

<2月8日付下野新聞>



在カンボジア日本大使館に堀之内秀久大使(写真中央)を表敬訪問。カンボジアの最新情勢を聞き、集合写真を撮った（1月23日）

奮闘

JICA ボランティア栃木県出身隊員の派遣国一覧

平成29年3月時点で 34 人が25国で活躍中！！

※とちぎ応援団が壮行会で激励した方々



※SV はシニアボランティア

※カッコ内は 2 人以上派遣の人数。
それ以外は 1 人

あなたもとちぎ応援団員になりませんか？

青年海外協力隊とちぎ応援団は平成 15 年 10 月 10 日、本県出身または在住の青年海外協力隊員及び帰国隊員への支援と本県内における協力隊事業への支援、協力を行う組織として発足しました。全都道府県に同じ目的の組織があります。

とちぎ応援団は会費収入で運営しています。

- I 会員は①個人年会費 一口 3,000 円、②団体、法人会員年会費 一口 1 万円の 2 種類。
- II 会員には、協力隊の月刊情報誌「クロスロード」と協力隊カレンダーをお届けします。

郵便振替口座 口座番号 0015-90628874/口座名義 青年海外協力隊とちぎ応援団

青年海外協力隊とちぎ応援団事務局

〒320-8686 宇都宮市昭和 1-8-11

下野新聞社地域貢献推進室内

☎ 090-5544-4167 (事務局長、石崎)